

# 1 本市の概況

## (1) 概況の把握

### ①基礎的項目の整理

#### ア) 本市の位置・地勢や沿革

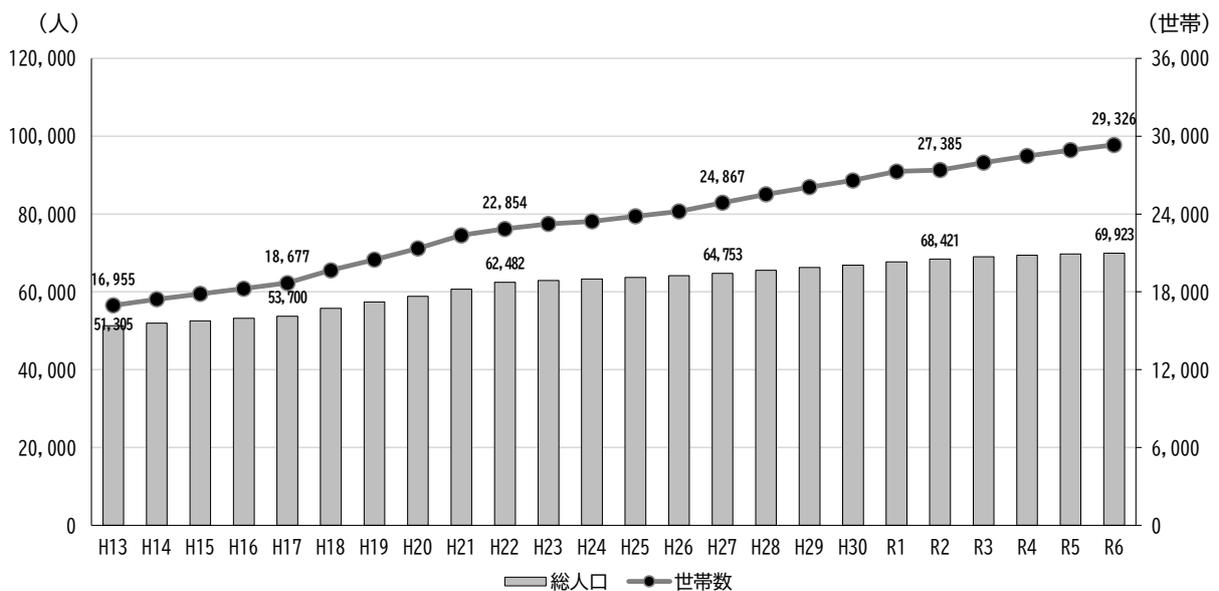
守谷市は、茨城県の南西端に位置し、東京都心から40キロメートル圏内にあります。東は取手市、西は常総市、北はつくばみらい市に隣接し、南は利根川を挟んで千葉県野田市と柏市に相對した東西7.5km、南北7.2km、面積35.71km<sup>2</sup>の市です。

地勢は、茨城県南部から千葉県北部にわたる大きな洪積台地である「常総台地」から枝状に伸びる猿島台地の先端部分に位置します。利根川東遷工事及び鬼怒川開削工事により、三方向を利根川・鬼怒川・小貝川に囲まれた島状の地形となっています。



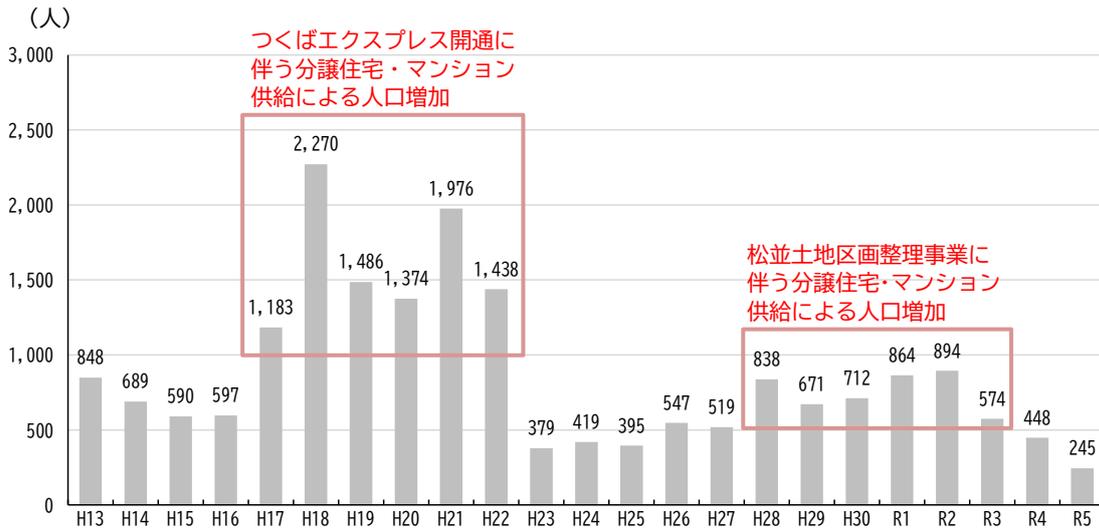
#### イ) 人口

本市では、つくばエクスプレス開通や松並木土地区画整理事業に伴う分譲住宅・マンションの集中的な供給増加による人口増加基調が続いており、20年の間に約1.3倍に増加しています。令和6年時点での人口及び世帯数は、69,923人、29,326世帯となっています。



出典：統計もりや（各年10月1日）（平成13年～令和5年）、住民基本台帳（令和6年10月1日）

図 人口・世帯数の推移

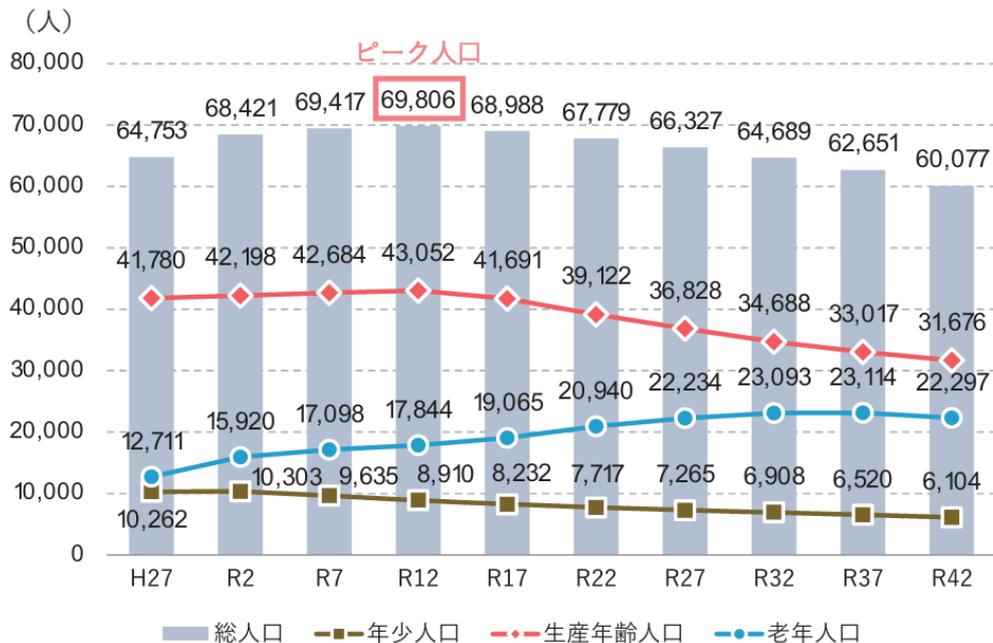


出典：第三次守谷市総合計画・第2期守谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略  
 図 人口増減数

平成27年の国勢調査結果を基礎数値としている社人研推計を踏まえた守谷市の将来人口推計となっているため、将来推計人口とp.1「図 人口・世帯数の推移」と比較すると、令和6年時点の人口は、将来人口推計で示した令和12年時点でのピーク人口よりも多くなっています。

下図に示す将来人口推計をみると、令和12年時点で69,806人のピーク人口となり、その後は減少に転じ、令和42年時点で60,077人まで減少することが予想されています。

年齢別にみると、「年少人口」が既に減少局面であり、令和12年までの人口増加は「生産年齢人口」及び「老年人口」による増加、それ以降の一定期間の人口維持は、老年人口に支えられていることが分かります。老年人口割合は、令和22年に30%を超えると予想され、将来的に深刻な少子高齢社会に突入すると考えられています。



出典：第三次守谷市総合計画・第2期守谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略  
 図 将来人口推計(守谷市独自算出)

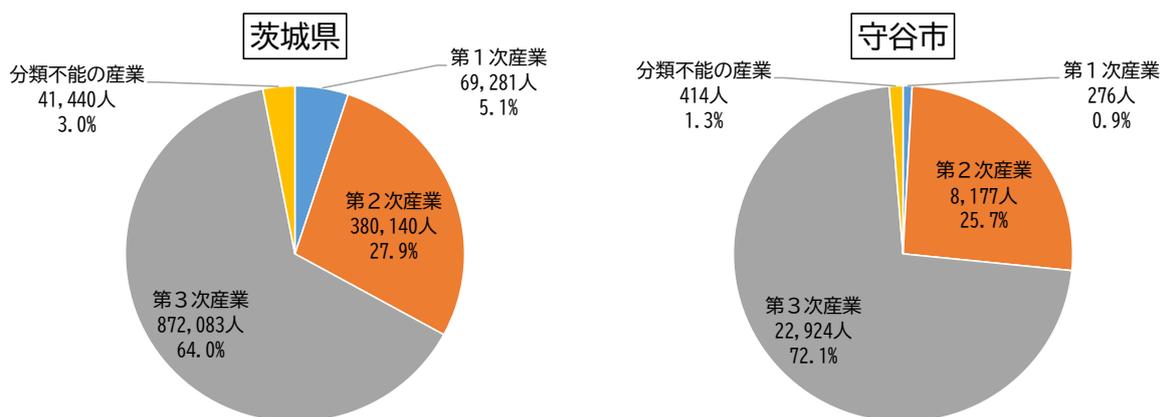
ウ) 産業構造

本市の産業別従業者数は、令和2年現在では第3次産業が22,924人と最も多く、7割以上を占めており、次いで第2次産業、第1次産業の順となっています。

茨城県の産業別従業者数の構成割合は、市と同様に第3次産業が最も多く、次いで第2次産業、第1次産業の順となっていますが、第1次産業の割合が市よりも高くなっています。

産業分類	平成 22 年		平成 27 年		令和 2 年	
	総数	構成比	総数	構成比	総数	構成比
総数	31, 291	100. 0	32, 243	100. 1	31, 791	100. 0
第 1 次産業	234	0. 7	307	1. 0	276	0. 9
第 2 次産業	7, 855	25. 1	8, 473	26. 3	8, 177	25. 7
第 3 次産業	21, 241	67. 9	22, 137	68. 7	22, 924	72. 1
分類不能の産業	1, 961	6. 3	1, 326	4. 1	414	1. 3

出典：統計もりや



出典：国勢調査（令和2年）

図 産業別従業者数の比較

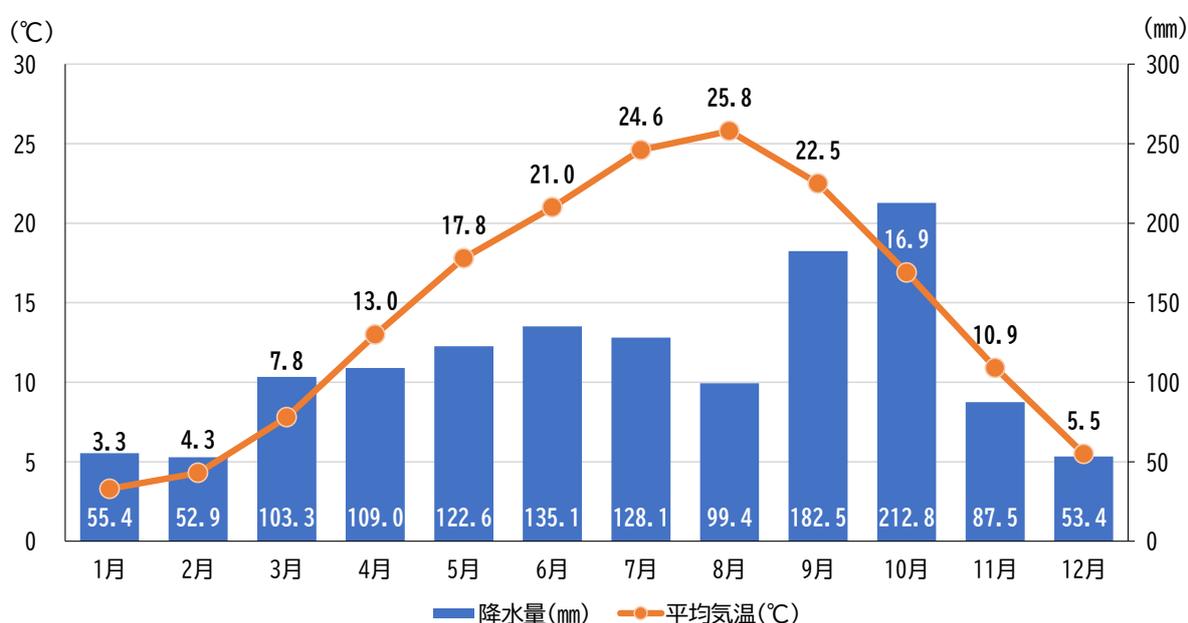
## エ) 気象状況

### i) 気象の現況

気候は、太平洋側気候で内陸気候の特徴を併せ持っています。夏季は、太平洋高気圧から吹き出す南よりの風の影響で高温多湿となり雨も降りやすく、冬季は、乾いた北西の季節風が吹き、晴天の日が多く、降雪は少ない状況となっています。内陸部では、気温変化が大きく乾燥しやすくなっています。

降水量は、冬は少なく、春から夏にかけては梅雨前線の影響などで徐々に多くなり、秋は秋雨前線や台風の影響などで更に突出して多くなっています。年降水量の平年値(龍ヶ崎)は1352.8mmとなっています。

平年の気温(龍ヶ崎)は、夏季の日最高気温が30.9℃、冬季の日最低気温が-2.3℃で、年平均気温は14.5℃となっています。

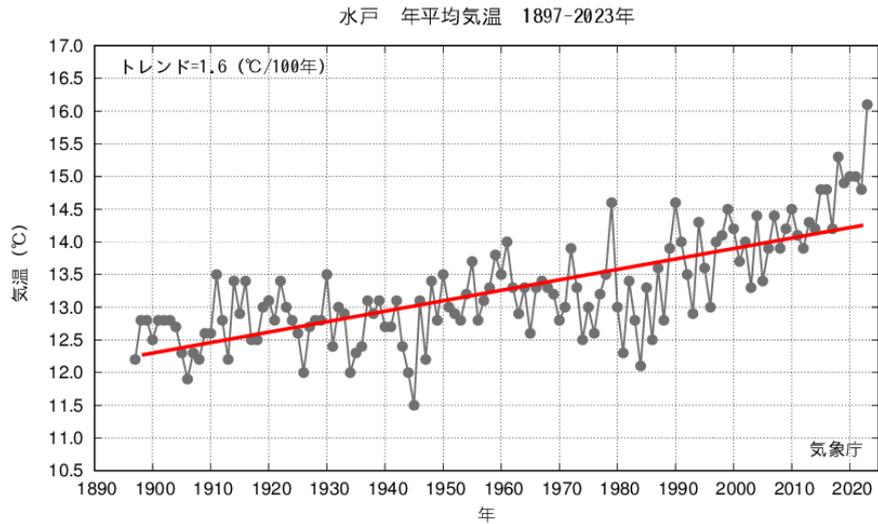


出典：気象庁(龍ヶ崎観測所)データをもとに作成

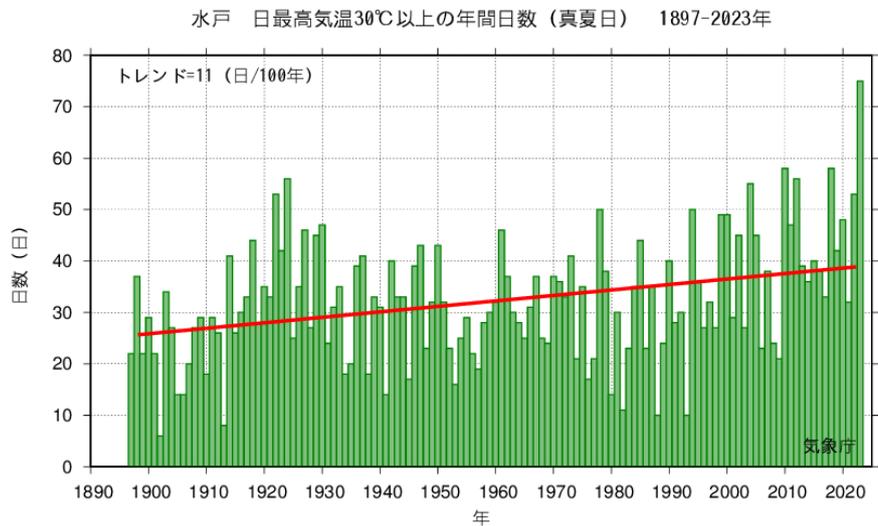
図 月別平均気温と降水量(令和5年平年値)(龍ヶ崎観測所)

### ii) 長期間の気候の変動

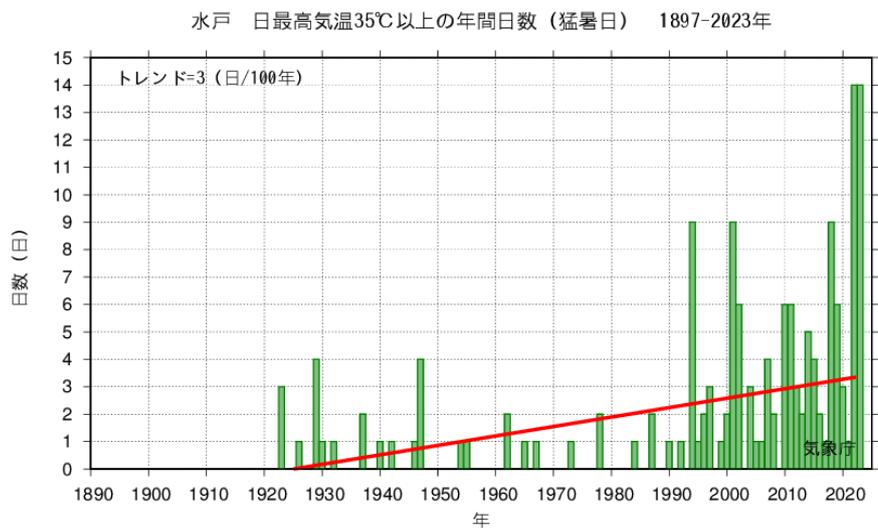
茨城県の年平均気温の経年変化をみると、過去100年間で約1.6℃の気温の上昇がみられます。なお、日最高気温30℃以上(真夏日)の年間日数、日最高気温35℃以上(猛暑日)の年間日数は、上昇傾向がうかがえますが、統計期間内でデータが均質でないため、長期変化傾向の評価はできないとされています。



出典：国立環境研究所/気象変動適応情報プラットフォーム（気象庁作成）  
 図 年平均気温(茨城県)



出典：国立環境研究所/気象変動適応情報プラットフォーム（気象庁作成）  
 図 真夏日年間日数(茨城県)



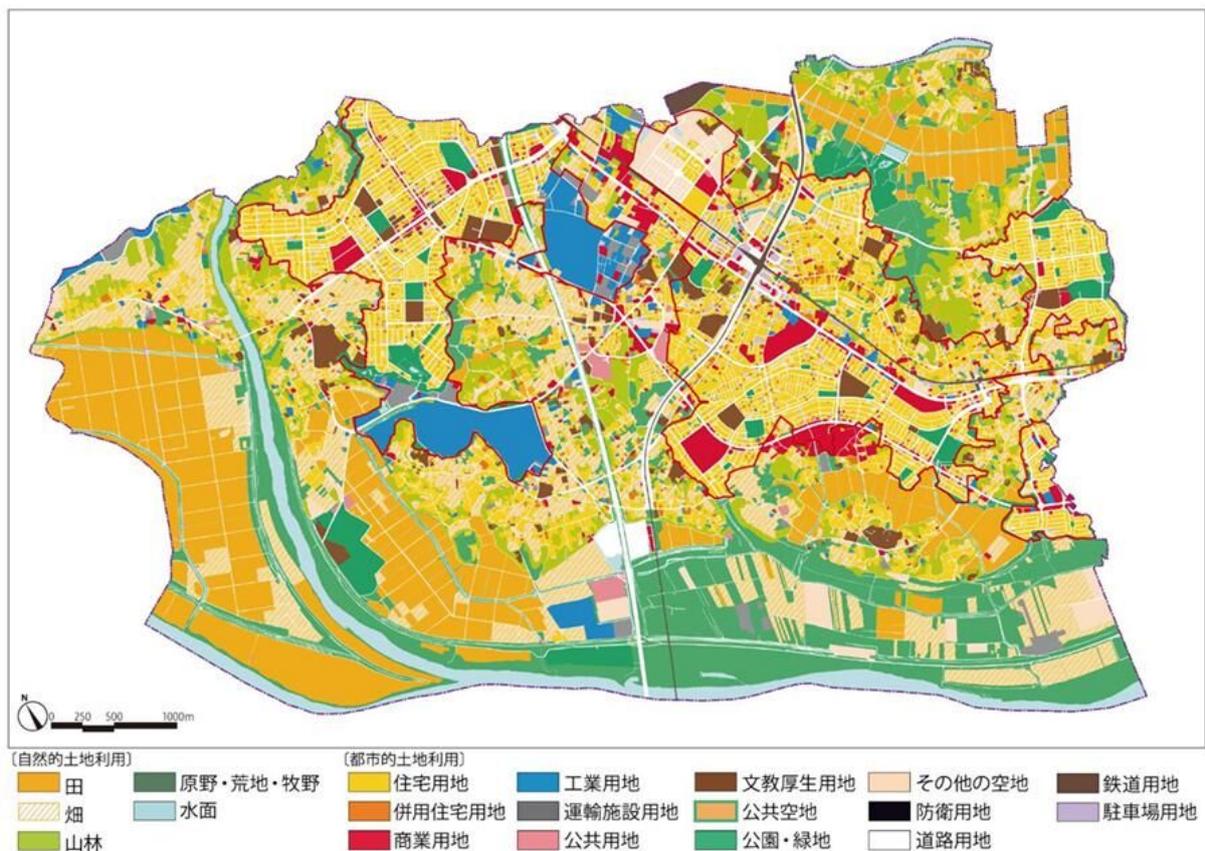
出典：国立環境研究所/気象変動適応情報プラットフォーム（気象庁作成）  
 図 猛暑日年間日数(茨城県)

オ) 土地利用の状況

鬼怒川右岸と小貝排水路両岸には田を中心とした大規模農用地、利根川左岸には畑を中心とした大規模農用地と、耕作されていない農地(荒地)が広がっています。また、これらの大規模農用地の周囲に、農地や山林などに囲まれた農業集落が形成されています。台地面の外縁部や谷津には傾斜地山林が分布しています。住宅系の土地利用は、緑に囲まれた大規模住宅団地(北守谷, 南守谷, みずき野, 美園)及び、守谷駅周辺の既成市街地を中心に分布しています。商業系の土地利用は国道294号(都市計画道路取手守谷線)沿道、常総ふれあい道路(都市計画道路乙子北守谷線)沿道を中心に行われています。工業系土地利用は主に県道野田牛久線(都市計画道路北園野木崎線)、国道294号、常総ふれあい道路沿道を中心に分布しています。近年には、松並青葉地区の土地区画整理事業により、自然的土地利用及び工業系土地利用から住宅系へ大規模な土地利用転換が進みました。

総面積	田	畑	宅地	山林	原野	雑種地	その他
3,571 m <sup>2</sup>	446 m <sup>2</sup>	360 m <sup>2</sup>	902 m <sup>2</sup>	222 m <sup>2</sup>	172 m <sup>2</sup>	981 m <sup>2</sup>	488 m <sup>2</sup>
100.0%	12.5%	10.1%	25.3%	6.2%	4.8%	27.5%	13.6%

出典：統計もりや（令和5年度）



出典：守谷市都市計画マスタープラン（令和2年3月）

図 土地利用状況図(平成27年度)